

令和3年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 羽場認定こども園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に囲まれた環境にあり、子ども達自身が遊びを通して自然の変化に気付き、季節毎の様々な生き物や植物の生長を観たり、飼育、栽培を通して触れ親しむ事が出来ている。 ・従来は園外保育や戸外遊びの時は、異年齢児と関わって遊んでいたが、コロナ感染予防を主に考えると異年齢児との関わりで学ぶことや共感する機会が減少した。この状況のなかでいかに工夫して、異年齢児との遊びを広げていくことで、心の豊かさを培っていくかが課題である。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物をクラスメートと飼育、栽培する中で生長観察をし、生命の大切さ、尊さを知り、豊かな心情を育む。 ・異年齢児とのあそびを工夫し、広げる中で互いに心の豊かさや意欲を高める。
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の自然の変化を体感するため、近くの山へ分散化した異年齢児同士での散歩をし、好きな自然あそびを見つけて遊ぶ。 ・クラス毎に園庭や山で見つけた虫(クワガタ、カブトムシ、ダンゴ虫、カナヘビ等)を飼育し、その名前を考えたり、図鑑で、どんな環境でどんな餌を食べるか等を調べ、生長観察してクラス皆が大切に育てている。また、異年齢のクラス毎に交流できるように、観察する機会を持つようにした。また、園庭ではクラス毎に違った野菜や草花を育てるため、当番活動をし、生長を観察しながら実った野菜は、給食時に調理してもらい、他クラスも味わうようにし、自然の実りに感謝する心を育む取組をしている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを分散して、異年齢児同士の関わりが持てるように飼育している虫や栽培中の野菜を観察する機会を作り交流する中、異年齢児同士が親しく、仲良くなり、「かけっこを一緒にしたい。」「おばけになって小さい子を驚かそう。」「お店やさんごっこを一緒にしたい。」「折り紙をおしえてあげたい。」「ゲーム遊びをしたい。」などの声が自主的に出てきて、異年齢児とのあそびが広がってきた。 ・子どもたちが花壇や山への散歩途中で捕まえた虫の飼育が始まり、友だち同士で飼育方法の約束事や虫などの名前を決めたりしながら育てる内に、生長を喜び合い、また、虫などの死への遭遇などを経験し、生き物への愛着や生命の尊さを感じたように思う。興味や関心を持ち、共に活動することで共感し、友だち同士の仲間意識が次第に強くなり、少しずつ、自身の感情をコントロールできたり、相手を許すこともでき、友だちとの大きなトラブルも少なくなってきたように思う。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・園内では一人一人の子どもの様子が全保育者に共有されている。そのため、保護者に対してどの先生からもその日の姿を伝えることができている。製作などの活動は充実しており、作品としては子どもたちの育ちを見ることができている。 ・今後はそれに加えて子どもたちの様子をドキュメンテーションなどでまとめたり、行事のねらいなどを文章にしたりといった形での発信も試していただきたい。 ・保育の内容について、スキルアップを目指すとともに子どもたちの育ちと結び付けて改善を図ったり、保育者同士で話し合う時間を確保し、振り返る取組をしていただきたい。